熱海温泉清快樓　徳富蘇峰先生　侍史　／京城府孝子町一七五　香山光郎　[[1]](#footnote-1)

本日清快樓よりの御葉書拜誦、眷顧之御厚情感激仕候。客冬、京城日報紙上に無佛翁を憶ふ一遍を掲載(一週間連載文中後半は先生を偲申上候。いつぞや東京日々より御同車申上げ、國民新聞社前を通過之際、「我が子になつて呉れよ」と仰せられしこと、五年之月日を閲して今日やうやく御高嘱に副申上候。民友社にて先生親しく門生の手を取られ「牢屋に這入るな、文章報國に精進せよ」と懇論遊ばされしも、未だ開悟の機熟せず、昭和十二年六月獨立運動の嫌疑にて檢擧され、八ヶ月間囹圄の身となり重病にて保釈出獄、去十一月一審にて無罪の御判決を受けしも検事控訴にて今尚被告人に御座盡。然れども獄中病中、反省と熟慮の機會に惠まれて、朝鮮民族の運命に就き確信を得たるは、何より幸いと存候。朝鮮人は今後、天皇の臣民として日本帝國の休威を荷擔し、同時にその光榮を享受すべきものと悟り、國民修業に専念仕候。朝鮮人こそ今や天皇中心主義似て進むべきと存候。何んとなれば、天皇に連なりてのみ大和、朝鮮両民族は一家になるべければにて候。これより朝鮮の正しき民族運動は皇民化の一筋あるのみと存候。幸に古き歴史と文化と血液の交流は、之を正しく認識するに於いては、また適当なる政治の下に於いては、両民族の同一國民化は寧自然への復帰なるかの氣易さをさへ感せしむるものとなるべきかと存候。

紀元節より朝鮮人の創氏制実施され、内地式氏名に改むる自由認められ候。依而、門生も畏くも天皇の御名の讀方に倣ひ奉り、香山光郎と創氏改名致し、本日戸籍係に届け出候。以上にて門生の心懐、御垂察のことと存候。

裁判の成行、逆睹致兼候も、病餘、刑餘の生命を愈々文章報國に捧ぐる決心に御座候。遙かに先生の御後塵に從ふべしと存候。

文藝賞、嬉しくもあれども恥しきこと先立申上候。

益々

御健康に渡らせられ朝鮮青年讀本、是非御垂示匕度御願申上候。草々不宣。

昭和十五年二月十二日　香山光郎（李光洙改め

再拜

蘇峰先生　賜鑑

1. 読みやすくするために句読点を挿入してある。

原文は、金源模『영마루의 구름』(단국대학교출판부, 2009,pp.965-972)所収の複写本。解読には同書pp.957-959の解読文も参考にした。金源模氏は複写のみ所有しており、原本は所在不明とのこと。 [↑](#footnote-ref-1)